

茨城県の景気判断を据え置きました
～茨城県経済は、緩やかに回復しつつあります～

みなさん、こんにちは。いつも、このサイトをご覧くださいありがとうございます。私どもでは、茨城県における最新の金融経済情報を提供しております。公表されている指標は実態としては数か月前までのものですが、日銀水戸事務所作成の茨城県金融経済概況公表日の前営業日までに、企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。この紙面では、県内景気判断の背景となった考え方などを、簡潔に、可能な限りわかりやすく解説しますので、どうぞご利用ください。

5月11日に公表しました茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢を、生産面に弱い動きがみられるものの、基調的には「緩やかに回復しつつある」として、判断を据え置きました。26か月連続です。

個人消費についてみると、3月の百貨店・スーパー販売額は、3か月振りに小幅ながら前年を下回りました。天候不順を背景に春物衣料が伸びなかったことが影響したようです。もっとも、身の回り品販売の動きは引き続き活発であり、全体として底堅く推移しています。この間、乗用車新車登録台数は、5か月振りに前年を上回りました。2月に発生した一部メーカーでの生産トラブルの影響が収束したことによるものですが、4月にも熊本地震の影響から生産面に影響が出ていることから、供給サイドの要因で月々の登録台数の振れが大きくなる状況が続いています。このところの株安の影響が、自動車などの耐久消費財の基調的な販売動向に変化をもたらさないか、今後も月々の動きを注視していきたいと思えます。

住宅投資については、2か月連続で前年を上回りました。低金利環境や、消費税率引き上げを展望した動き等から、持家の着工件数が増加してきたことが背景の一つです。もっとも、貸家系で給与住宅（社宅等）の着工件数が多かったという特殊要因や、分譲で大型物件の着工があったことから3月の着工件数は高めとなっていますが、基調的には貸家系、分譲とも昨年までに比べ、着工ペースはやや落ち着いていることから、住宅投資全体では持ち直しの動きが一服という評価に止めています。マイナス金利付き量的・質的金融緩和により、住宅ローン金利は一段と低下していることから、先行きは、再び持ち直しの方向に向かうものと期待しています。

公共投資については、先行指標の公共工事請負金額が、3月は、国、独立行政法人、県、市町村とも高めの伸びとなっており、全体として高水準となっています。2015年度は上

期の発注が低調でしたが、下期の発注は増加方向に転じています。2016年度については、国、県とも前倒し発注を行う方針を固めていることから、公共投資全体では、「下げ止まっている」として、先月までの判断を一步進めました。

この間、生産については、新興国経済減速の影響を受けて、輸出が弱含んでいることから、引き続き弱い動きとなっています。

先行きについては、当面、輸出・生産面に鈍さが残るとみられますが、雇用・所得環境の改善に支えられて個人消費が底堅く推移するほか、企業の設備投資も増加基調であること、公共事業の前倒し発注も寄与することから、国内需要は増加基調を維持するとみています。先進国の景気回復の波及から、いずれ新興国経済も減速した状態から脱していくことで、輸出・生産面も持ち直しに向かうものと考えています。

2016年5月11日
日本銀行水戸事務所長
鶴屋 洋一郎